

# Topic 32

## 米国ペンシルバニア州の VCP (その 2)

- 1) こんなにあります！財政インセンティブ
- 2) 連邦との覚書をとおして

---

お疲れ様です。環境メルマの佐藤です。

今週はペンシルバニア州におけるブラウンフィールド再開発財政支援と環境責任保護対策についてお話いたします。

### 1) こんなにあります！財政インセンティブ

ペンシルバニア州のブラウンフィールド再開発で利用可能な財政インセンティブをザッと挙げてみます。

- ・ 工業用サイトの再利用プログラム：地方自治体や個人がサイトアセスメントやサイト浄化を実施する際に申請可能な助成金やローンを提供。
- ・ インフラ開発プログラム：民・官の開発者がサイトアセスメント・浄化を実施する、あるいはブラウンフィールドで建設事業を展開する場合に利用可能な助成金やローンを提供。ローン返済 15 年一定金利 3%。
- ・ インフラおよび施設改善プログラム：特定の債務問題を抱える公共事業に対して、複数年にわたる助成金を提供。
- ・ 有害物質による汚染サイト浄化ファンド：その名のとおり、浄化費用を支援。ファンド獲得は大変競争率が高く、ペーパーワークの量は半端でないようです。
- ・ ブラウンフィールド インベントリー助成金 (BIG) プログラム：市または開発当局が地域に存在するブラウンフィールドのデータベース作成に対して支払われる助成金。上限は \$50,000(約 60 万円)。
- ・ わたしたちのサイトにビジネスを！“Business in our sites”(親しみのあるネーミングです)：ブラウンフィールドを含むキーサイトにおいてコミュニティーに経済成長をもたらすよう雇用創出に貢献する自治体や経済開発関係者に対して設けられたローンおよび助成金。2004 年には、総額 \$300,000,000 (約 350 億円) が貸与されています。
- ・ ペンシルバニアを築いていこう“Building PA”：州の不動産資産開発のために利用されるファンド。投資家や財団等へ貸与されます。もちろんブラウンフィールド大歓迎。
- ・ PENNVEST (おそらく Pennsylvania と Invest を掛け合わせた造語でしょう)：同プログラムは、元来、州の清浄水リボルビング ローン ファンドを運営しています。2004 年には支援範囲を拡張し、地域の地下水や表層水に汚染があるブラウンフィールドの浄化

に対しても基金を提供できるような仕組みに変わりました。2004年には\$48,000,000（約56億円）がブラウンフィールドに支援に利用されています。これは同プログラム実施の支援全体の約30%に相当します。

- 雇用創出に対する税控除プログラム：同プログラム登録から3年以内に、約20%の雇用が増加（または25人増加）した（中小）企業に対して、\$1,000（約12万円）の税控除が認められます。
- 地方自治体と経済開発局のためのキーサイト イニシャティブ：同プログラム登録者は、工場跡地のサイトアセスメント、費用見積もり、浄化計画等の実施において、州が契約している専門家を利用することができる。

その他、ベンチャー企業の支援するためのインセンティブや州特定ゾーンに限っての財政支援などが利用可能です。また、環境保険の開発予定もあるとのこと。

この見事なまでの財政的バックアップのお蔭で、2004年までに土地リサイクルプログラムのもとで自主浄化が終了したサイト数は1,711件にもなっています。また、自主浄化中のサイト件数は650件ほどあります。

## 2) 連邦との覚書をとおして

ペンシルベニア州は、2004年4月に米国環境保護庁（USEPA）と交わした合意の覚書（Memorandum of Agreement）により、同州の土地リサイクルプログラムに従って自主浄化を終了したサイトにおいては、連邦が運営している CERCLA プログラムや RCRA プログラム（Topic19 参照）及び TSCA（毒物管理法）による浄化要求条件も満たしたのものとする、という約束を成立させました。これは全米初の試みであり、州の自主浄化対象者を大いに勇気付けたようです。それまでは、せっかく自主浄化に努力を払ったのに、後になって連邦から助言を受けるかもしれない可能性があったわけですが、その心配がなくなったのです。このような新しい活動展開を見せてくれるペンシルベニア州。米国の VCP モデルになるのも納得がいきますね。

来週は、デラウェア州の VCP をご紹介いたします。

Thanks God It's Friday!

Thanks God It's Brownfield!!

環境メルマ 佐藤 ([t.sato@ers-co.jp](mailto:t.sato@ers-co.jp))

---

坂野のつけたし ([banno@ers-co.jp](mailto:banno@ers-co.jp))

メルマの Topic20 から前回までに、おもにアメリカ北東部の10の街について、ブラウンフィールド再開発の成功事例を紹介しました。振り返ってみてわかることは、いずれのプロジェクトももともと重工業が栄えた場所で、産業構造の転換により工場の存在意義が薄れ、最終的には閉

鎖、そして失業や荒廃が訪れています。何年かの遊休地的な期間を経て、「何とかしてほしい！」というコミュニティーの気持ちと、「何とかしたい！」という行政や事業者の考えが一致して、ブラウンフィールド再開発事業のお膳立てが整っていった事例がほとんどのようです。

こう見てくると、日本のブラウンフィールドはどのようなのでしょうか。重工業が栄えた場所はたくさんあります。閉鎖された工場も結構あるようです（Googleで「工場閉鎖」を検索すると152万件かかってきます）。遊休地化しているところはどうでしょうか？（「工場閉鎖」&「遊休地」とすると12,600件でした。）そのコミュニティーには失業などの問題は発生しているのでしょうか？（&「失業」で217件になりました。）ちなみに、factory, closure, idle, unemploymentで検索すると53,900件、日本の約250倍の数がかかってきます。

アメリカのブラウンフィールド予算は70~80億円。その250分の1の3000万円がいい。まず、日本のブラウンフィールドの実態調査をやってほしいなあと思うこのごろです。ERSでやりますから…。